

合計残高試算表は各勘定科目を、借／貸に分けてそれぞれに合計する。

補助簿に記入されたものは、収入／支出で分けられているので、借／貸に仕訳けないと合計できない。

現金の収入は「増加」 勘定科目では「資産」なので
収入は借方(左)に合計して記入する。

現金出納帳の仕訳

現金★ 140,000	30,000 売上 80,000 売掛金 30,000 当座預金 A
----------------	--

現金の増加した要因は貸方(右)に記入する

当座預金の支払いは「減少」 当座預金は「資産」なので
支出は貸方(右)に合計して記入する

当座預金の仕訳

買掛金 ... 現金 B 30,000	367,500 当座預金 C
------------------------------	----------------

当座預金の減少した要因は借方(左)に記入

最後に借／貸で合計するが、BはAにも出ていてそのまま合計すると二重に合計することになる。

★の現金はAが含まれる A=B のため Bは現金の借方(左)で合計しない
Bは借方(左)として合計されないが、Aとして存在しているので残ったAとCで合計できる。

期首貸借対照表の残高との合計を忘れないように❀